

駿河湾の深海魚 (11)

ヤリホシエソ (その2)

久保田 正・佐藤 武

ヤリホシエソ *Leptostomias multifilis* は、今井貞彦博士が駿河湾内から1939年と1940年にそれぞれ1個体と2個体を採集した標本をもとに1941年に新種として発表されました。その後長い間採集記録がありませんでしたが、近年他の湾（相模湾や土佐湾）や東北太平洋域からも採集されました。

ヤリホシエソ属に含まれる魚類は、世界中の海から12種類が報告され、そのうち日本近海から4種類が知られています。しかし、2013年発行の日本産魚類検索図鑑（第3版）で検索できるのは僅かに2種類で、その形態や分布の限られた情報しか記載されていません。このことは、本属に含まれる標本の入手が困難であることにほかなりません。

駿河湾内で1976年から1983年に行われたサクラエビ漁でエビと一緒に混獲された本種の多数個体を手に入れることができました。そのうち163個体の胃内に摂り込まれた餌生物について調べたので、以下食性生態に関する知見を紹介します。

本種の餌生物としてはハダカイワシ科魚類のセンハダカ(2.5%)とイワハダカ(1.2%)そして同定不能な魚類(8.6%)が確認できました。このように魚類だけを捕食しており、サクラエビなどの甲殻類はみられず、その食性は魚食性であることが示唆されました。また、空胃率は高く調査個体数の65%を占めていて慢性的な空腹状態にあると思われます。

次に、当湾内においてサクラエビと混獲された本種を含めた5科11種類の深海魚の餌料生物について調べた結果、図1のような結果が

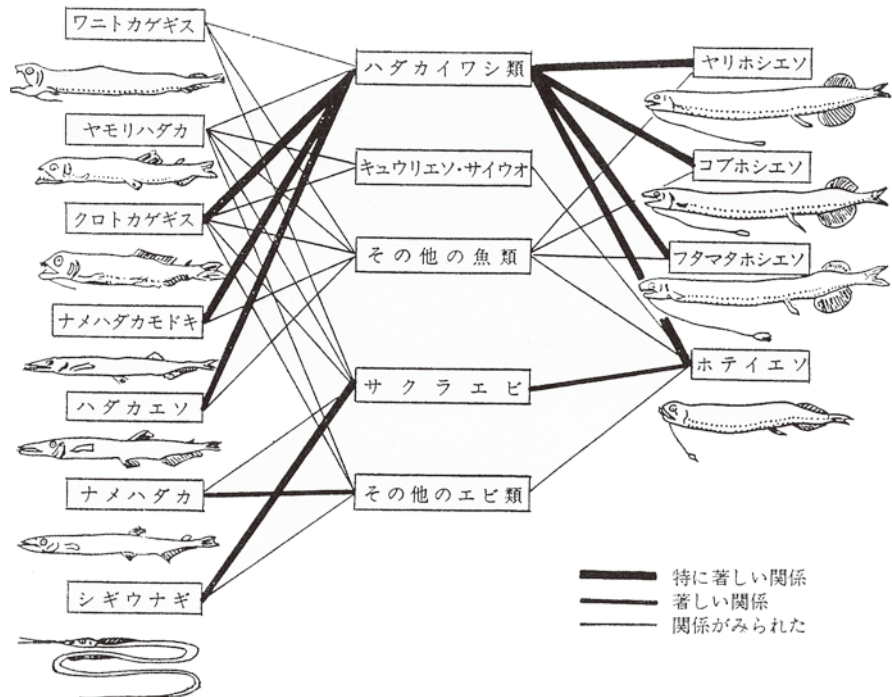


図 1. サクラエビ漁場における肉食性深海魚類の餌料生物
右側の上から3種がヤリホシエソ属魚類 (久保田、1984より引用)

得られました。図中の線が太いほど捕食-被捕食の関係が強いことを示しています。特に右側に示されているヤリホシエソ属3種とホテイエソ(ホテイエソ科魚類)は、ハダカイワシ類を主に捕食しています。

これらの深海魚の食性は、今まで本冊子で扱ってきたハダカイワシ科魚類やムネエソ科魚類は甲殻類を主体とした動物プランクトン食者であるのに対して、ここで扱った11種類は、他の小型の魚類(ハダカイワシ類やキュウリエソなど)や甲殻類のエビ(主にサクラエビ)を捕食する肉食者です。その違いは、鰓耙の構造にあります。前者の動物プランクトン食者の鰓耙は、数も多く、長く発達しているのに対して本種のヤリホシエソを初めとする11種の深海魚(図1)の鰓耙は、短い鰓耙となっているが、シギウナギのようにこれを欠いています。このように魚類の食性の違いは、鰓耙のほか口の大きさ、歯、消化管などの形態と密接に関係しています。時にはこれらの器官の特徴からその魚類の食性を推察することができます。